



田おこし

シャベルやスコップで硬い土を掘り起こし始めるが、ぎこちなく、うまくいかない。大変さを実感した子どもたちがとった行動は…



なんと6年生の発案で、協力員に手紙を書き自宅にお願いに行ったことで、耕運機の利用が実現しました【5月19~31日】



しろかき

水の入った田を足踏みで土をなじませていく作業ですが、子どもたちは即席の泥んこプールに大喜び【6月5日~8日】



苗とり

苗床に育った苗を田植えに向けて準備します。高学年が低学年を補助しながらの共同作業で順調に進みました【6月15日】



田植え

青々と育った苗を田に植えます。どんなお米が出来るかな。今から秋が楽しみな初夏の1日【6月16日】

稲刈り

学年みんながかまを持って作業。ひやひやさせられながらも結構上手。頑張って育てた苗が稲になった喜びでいっぱい。さあもちつきだ！【11月6日】



### ▽種もみまき

学校の花壇に子どもたちが作った苗床に種もみをまきます。低学年は緊張した表情で一粒ずつ丁寧に…【5月9日】



2面写真撮影はすべて神部清美さん

## 「広報モニター」1年のあゆみ

### 期待と不安のスタート

平成12年度から、今までの体験学習から総合的な学習の時間での取り組みとなった門沢橋小学校の「稲作」。総合的な学習の時間は、市が提唱する「ひびきあう教育」で最も重要視されているカリキュラムのひとつでもあります。これを門沢橋小学校の近くにお住まいで、かつてPTA役員として稲作にもかかわった広報モニターの神部清美さんに取材してもらいました。ここでは、取材した神部モニターのレポートを中心に稲作の1年を紹介します。

# 子どもたちが自身で考え実行

門沢橋小学校ではこれまで体験学習として稲作が行われていたが、今年からは総合的な学習の時間に行われるようになり、田植え、稲刈りなどの体験を目的にしたものから一歩進めて、子どもたちが自ら稲作の手順や方法を考え、実行していく方式に変わりました。これは子どもたちにとって非常に有意義なものになるだろうと思う反面、初めての取り組みで収穫にこぎ着けるだろうか、という不安もよぎりました。

子どもたちも、現実に自分たちが手作業でやっていたのとは違い、あつという間に田おこしを済ませてしまふ機械の威力を実感していたようでした。そして、子どもらしさが最も感じられたのが「しろかき」です。田んぼをプールに見立てて、どろんこスイミング。泥の中に横たわったり、バタ足を始めたり、泥投げやスライディングと、思い切り子どもらしく、のびのびしていました。このときばかりは大人に遠慮することなく、ど

この頑張った作ったおもちのおいしさをだれかに伝えたい、わかってもらいたい：そんな気持ちの表れなのでしょう、自分の食べる分を残して持ち帰るといった子どもが多かったそうです。わが家の息子もお弁当箱に入れて持ち帰ってくれました。肝心のもち

「ひびきあう教育」として、先生と子どもたちと農家の方と共にひびきあひ、課題や困難を一緒に解決していこうとする姿はほほえましくもあり、大きな感動を与えてくれました。私も親としてはもちろん、地域のひとりとして子どもたちと関わりを持つて、学校・地域・家庭が共にひびきあうことを目指していきたいと思

### 自主的に観察する子ども

この後の苗とりでは、生長する苗の様子をだれかに言われたわけでもないのに自主的に観察し、記録する子もいて、去年までとは明らかに違っ

た。自主的に問題を解決していこうという初めての動き。去年までとは違うう面が出てきたことに感激しました。子どもたちも、現実に自分たちが手作業でやっていたのとは違い、あつという間に田おこしを済ませてしまふ機械の威力を実感していたようでした。

夏は暑さや台風が耐えて育った稲は、10月に収穫の時期を迎えました。稲刈りでは、慣れない手つきでかまを持つていましたが、どの子も真剣に取り組む、あつというまに終了。12月2日、学校でもちつき大会が行われました。自分たちの1年間の実りがおもちになり、それらをほおばったときのうれしそうな顔は満足そのもの。これまでの苦労などは、どこかに吹き飛んでしまったかのよう

### 最も大きな成果を実感

また、稲作の苦労を実感した子どもたちは、協力してくれた地元農家の方を学校に招き、おもちを食べてもらいながら歌や演奏でもてなすことで、精一杯の感謝を表し、「来年もよろしくお願いします」と自分たちの気持ちを伝えていました。

稲作を終えて―協力員の感想  
子どもたちからお願いされて、稲作にご協力させていただきましたが、単なる稲作の作業工程を覚えてもらうだけではなく、大人になってからこの稲作りで経験した苦労や喜びを少しでも思い出してもらえたらうれしいです。  
また、苦労をともにした子どもたちも、もちつきに招待してくれたことはとても思い出深い出来事でした。

### ひびきあう教育とは―

教育委員会では、21世紀の学校教育理念に「ひびきあう教育」を掲げています。これは、子どもたちが心をくぐり、かわりを紡いでいくことが必要であるという考えから生まれたもので、このかわりを「ひびきあう」という言葉に託したものです。  
子ども・教師・地域の特性を踏まえた「特色ある教育」・「特色ある学校づくり」を展開し、子どもたちが、自ら学び・自ら考えるという総合的な学習の時間を重視したカリキュラムによって「ひびきあう教育」の実現を目指しています。

神部 清美